

令和 8 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和8年9月15日

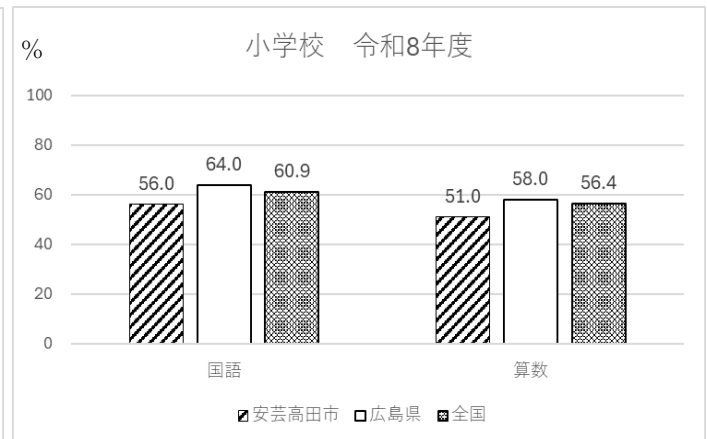
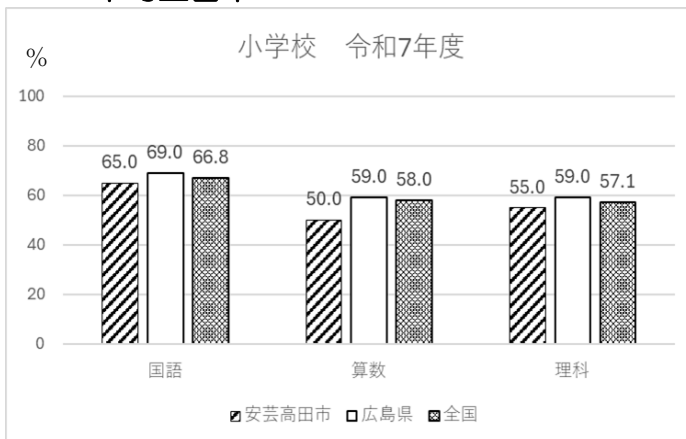
◎全国学力・学習状況調査（冊子による筆記方式4月23日実施）

- 実施教科・・・（小学校第6学年）国語 算数 （中学校第3学年）国語 数学 英語
○実施人数・・・（小学校）国語・算数 185人 （中学校）国語 185人 数学 184人 英語 174人

◆教科調査結果

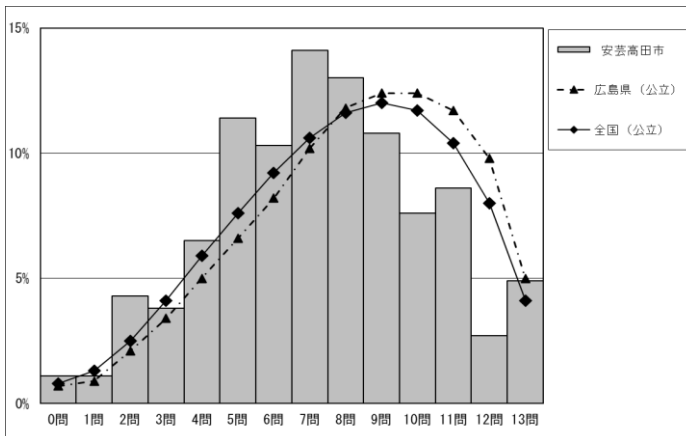
<小学校第6学年>

■平均正答率

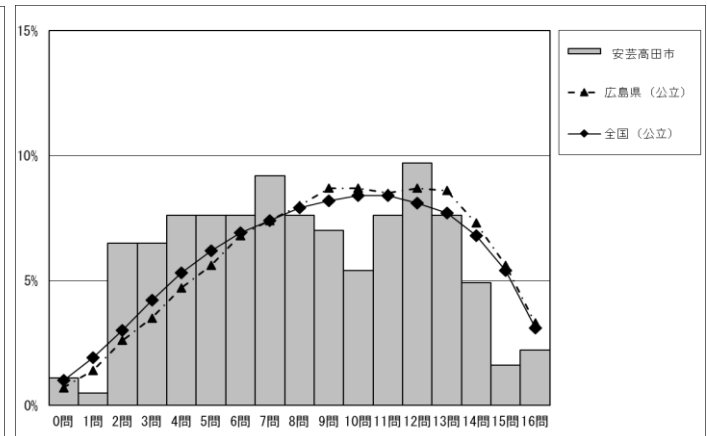


■正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：人数割合）

■令和8年度 国語



■令和8年度 算数



～教科調査の結果について～

【国語】

<内容>「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が56%で、県平均、全国平均より下回っている。
- ・「読むこと」において、平均正答率が全国平均を上回っているが、その他の内容については、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題は4.9%、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題は4.7%、全国平均より上回っている。

- ・「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」問題については、平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。
- ・正答数分布グラフより、県、全国と比べて9問から12問正答している人数の割合が低い。

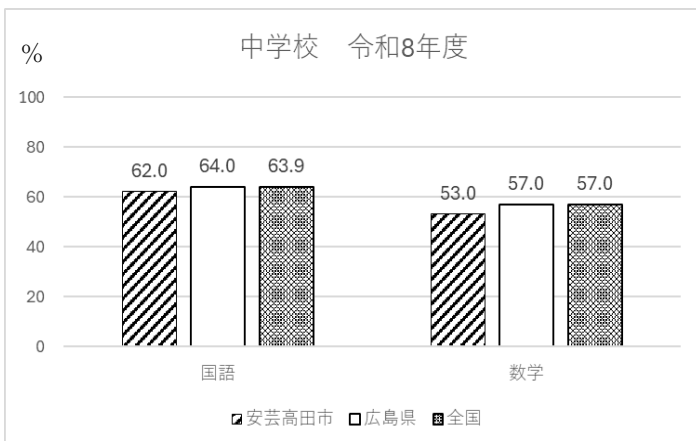
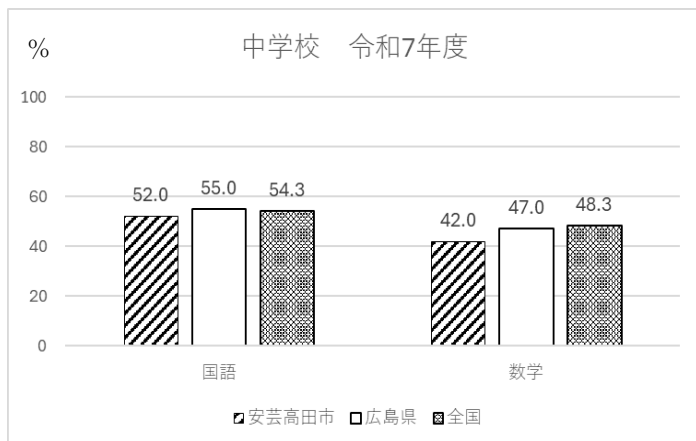
【算数】

<領域>「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」

- ・教科全体の平均正答率が51%で、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・全ての領域において、平均正答率が県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」問題は12.2%、「示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題は2.2%、「帯グラフの特徴と使い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる」問題は0.2%、全国平均より上回っている。
- ・「数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる」「整数と小数の減法の計算をすることができるかどうかをみる」「体積の意味について理解しているかどうかをみる」問題は、平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。
- ・正答数分布グラフより、県、全国と比べて2問から7問正答している人数の割合が高い。

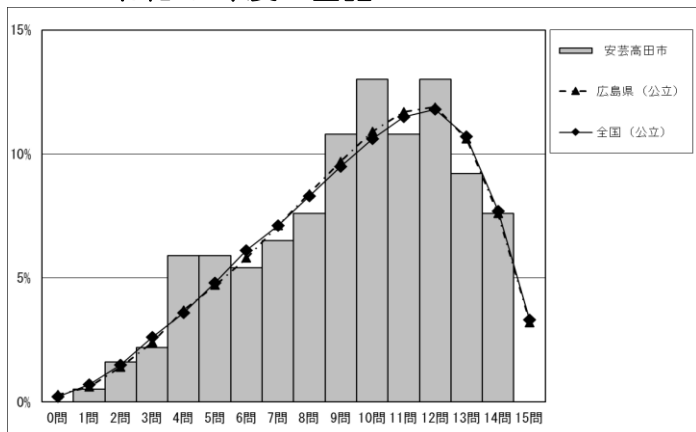
<中学校第3学年>

■平均正答率

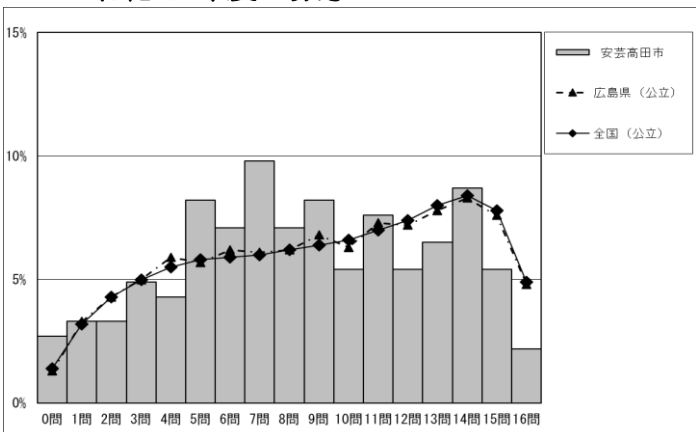


■正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：人数割合）

■令和8年度 国語



■令和8年度 数学

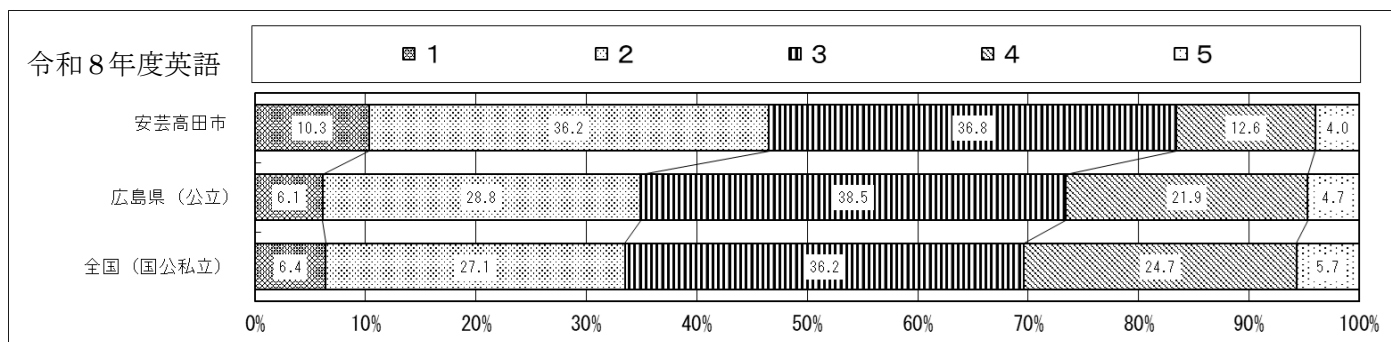


■平均IRTスコア

■令和8年度 英語

	平均IRTスコア
安芸高田市	462
広島県（公立）	493
全国（国公立）	499

■IRT バンド分布比較（※生徒のスコアから 5 段階区切ったもの 5 が高い数値）



～教科調査の結果について～

【国語】

＜内容＞「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」

- ・教科全体の平均正答率が 62% で、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」については、平均正答率が県平均及び全国平均を上回っている。
- ・「情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」、「互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる」、「文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる」、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる」問題は、県平均、全国平均より上回っている。
- ・「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うことができるかどうかをみる」、「段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる」問題は、平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。
- ・正答数分布グラフより、県、全国と同等な分布を示すが、15 問正答している人数の割合が低い。

【数学】

＜領域＞「数と式」「図形」「関数」「データの活用」

- ・教科全体の平均正答率が 53% で、県平均及び全国平均を下回っている。
- ・すべての領域で、平均正答率が県平均及び全国平均を下回っている。特に、「図形」の領域は、正答率が県平均及び全国平均を 8.3% 下回っており課題が大きい。
- ・評価の観点では、「知識・技能」において全国平均を 3.4%、「思考・判断・表現」において県平均を 5.5% 下回っている。
- ・「問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる」「統合的・発展的に考え、事柄の特徴を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題については県平均相当、全国平均より上回っている、「事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるかどうかをみる」問題は、県平均、全国平均より上回っている。
- ・「同類項の意味を理解しているかどうかをみる」「反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、 x の値に対応する y の値を求めることができるかどうかをみる」「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」平均正答率が県平均、全国平均との差が大きく課題が見られる。
- ・正答数分布グラフより、5 問から 7 問正答している人数の割合が高く、12 問から 16 問正答している人数の割合が低い。

【英語】（4 技能）

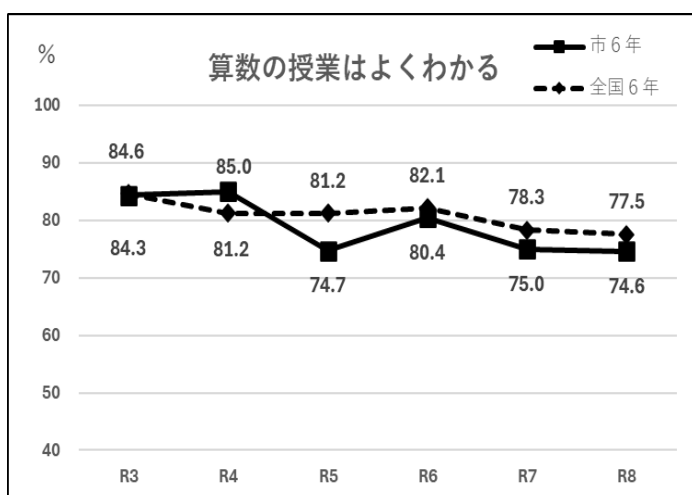
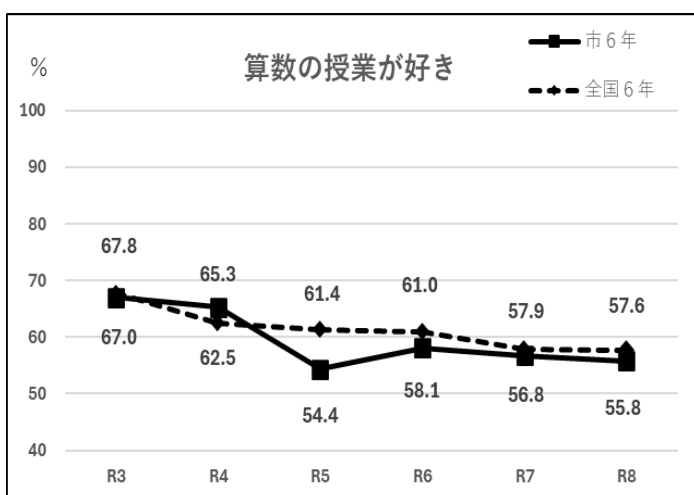
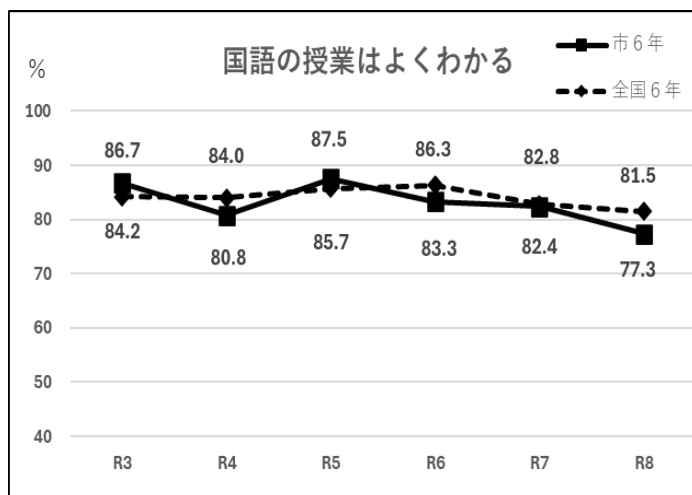
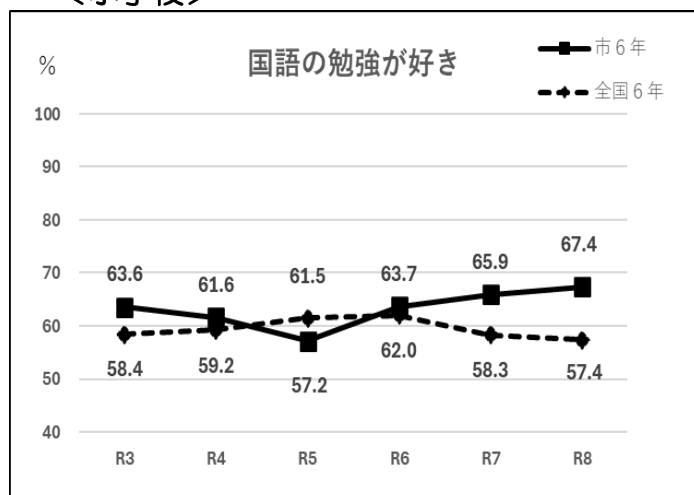
＜領域＞「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「書くこと」

- ・平均 IRT スコアが安芸高田市 462 広島県 493 全国 499 となっており、広島県及び全国より低い。
- ・「日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる」問題は、全国平均より 4.0% 上回っている。
- ・「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる」問題で、留学生との交流会で一緒にしたいことを 1 つ取り上げ、その理由を書くことは全国平均より 21.2%、学校で普段行うことを 1 つ取り上げ、それについての説明を書くことは 20.8% 下回っている。
- ・「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる」問題については、全国平均より 16.9% 下回っている。
- ・IRT バンド分布より、県、全国と比べて IRT スコア 1、2 段階の割合が高い。

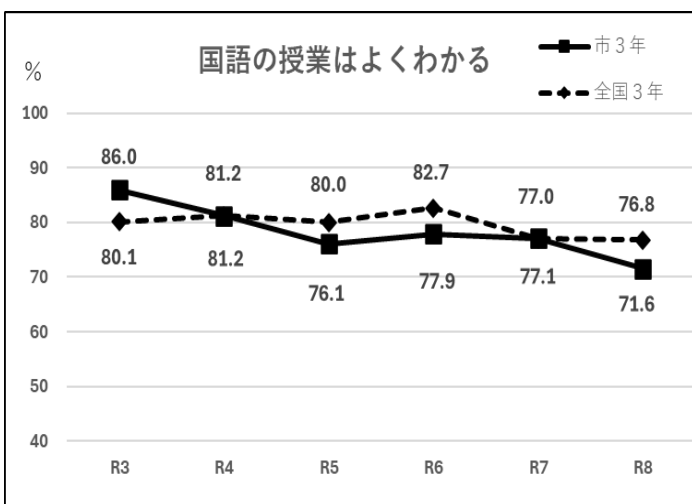
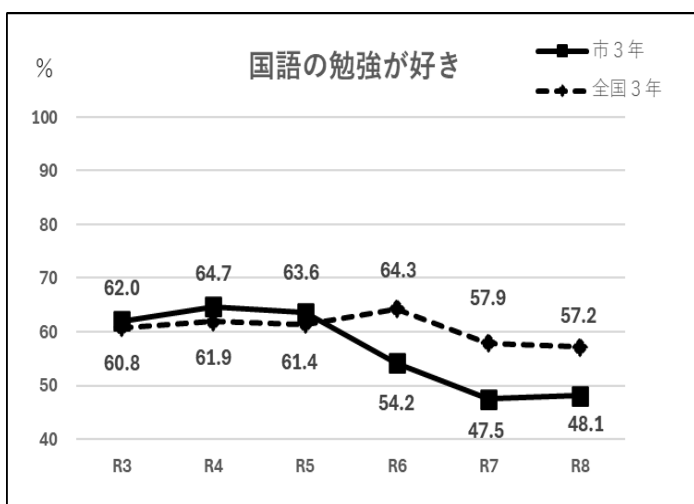
◆質問紙調査結果【抜粋】

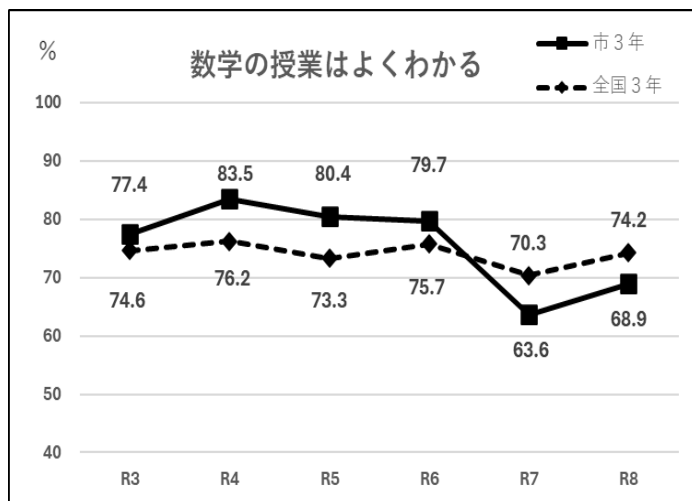
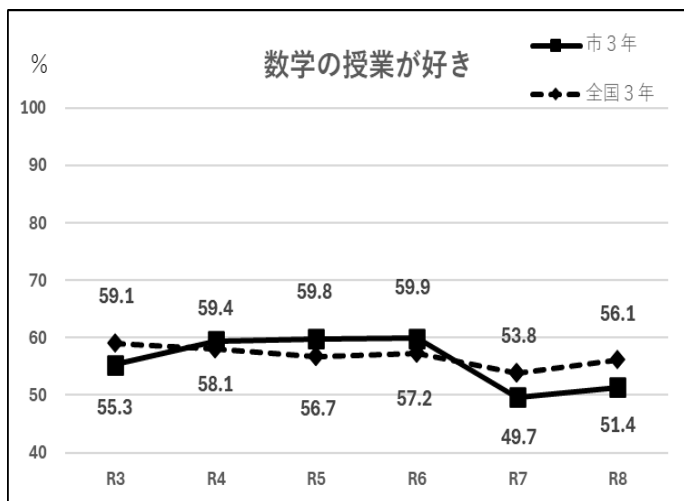
(1) 学習意欲に関する質問の肯定的回答割合

<小学校>



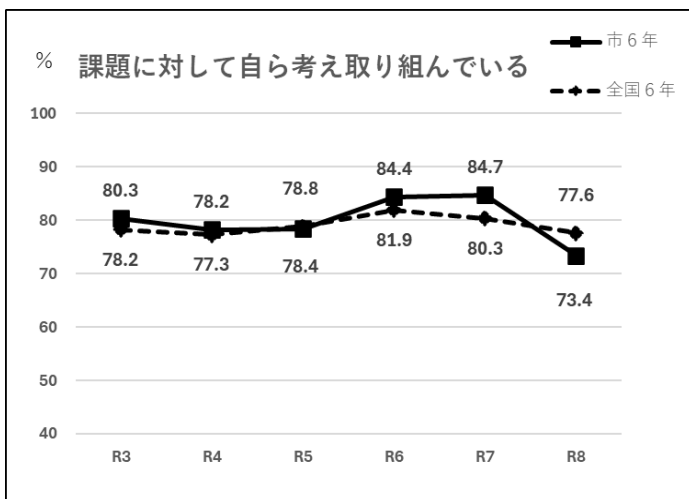
<中学校>



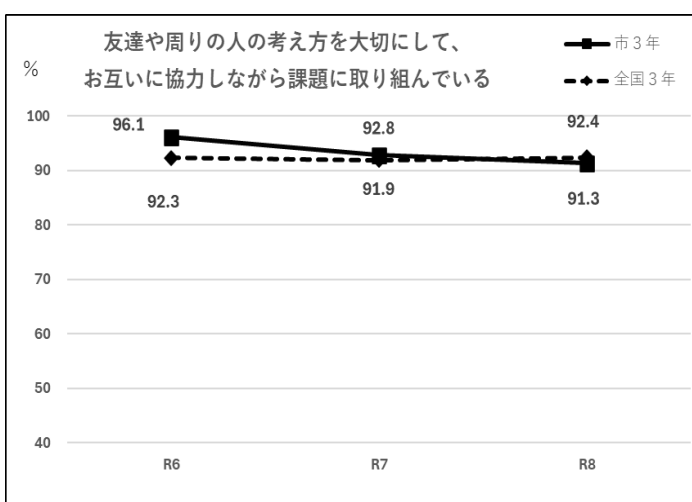
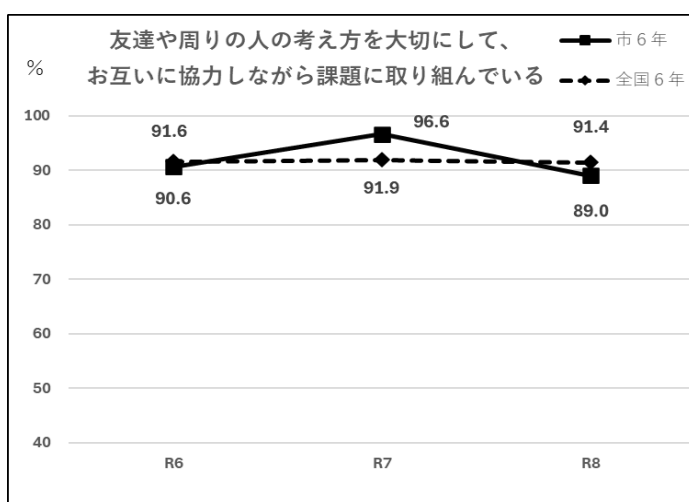
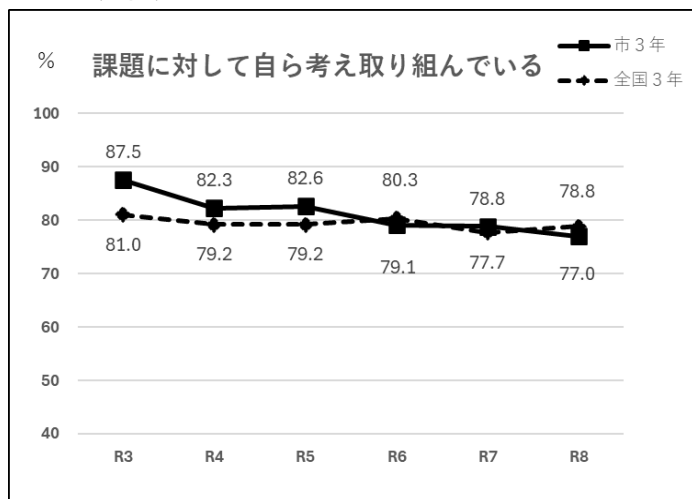


(2) 安芸高田市学校教育推進プランに関する質問の肯定的回答割合

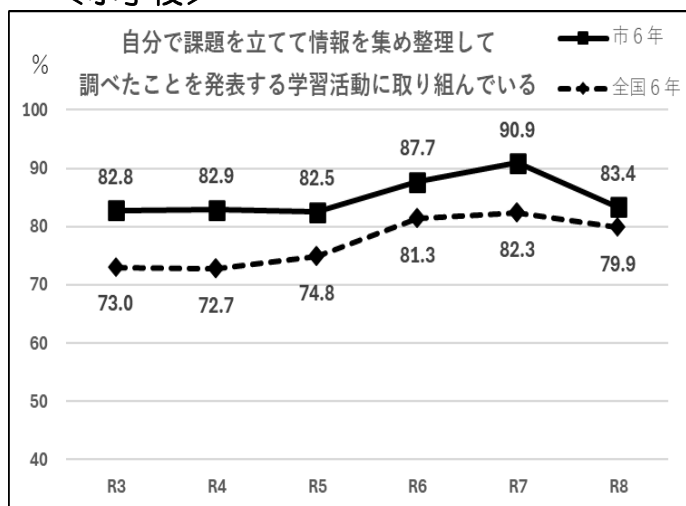
<小学校>



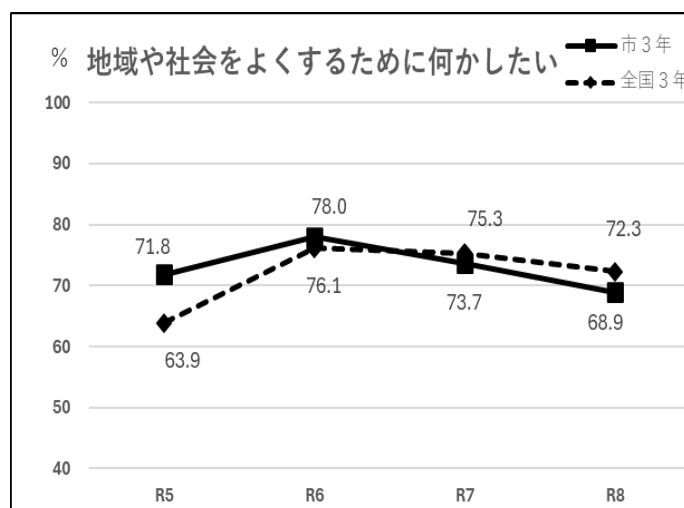
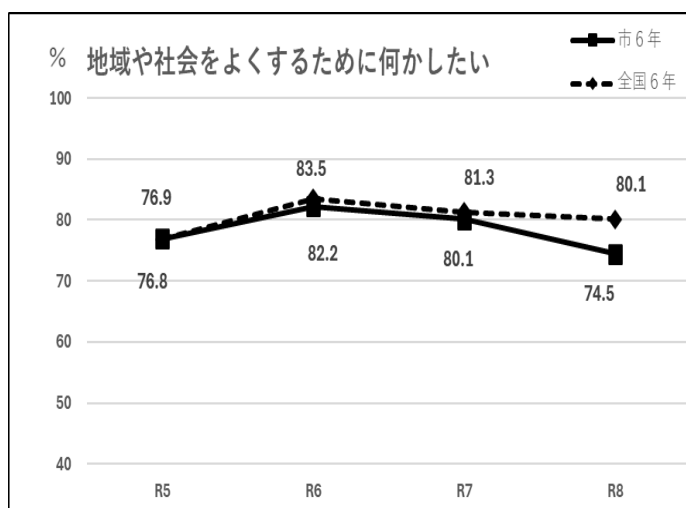
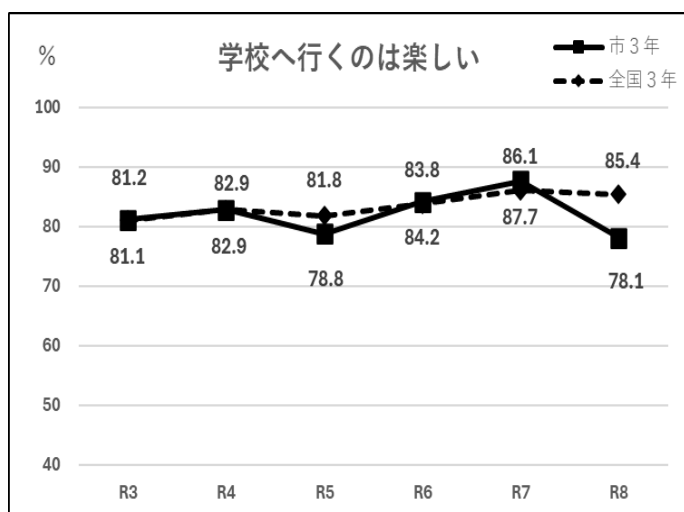
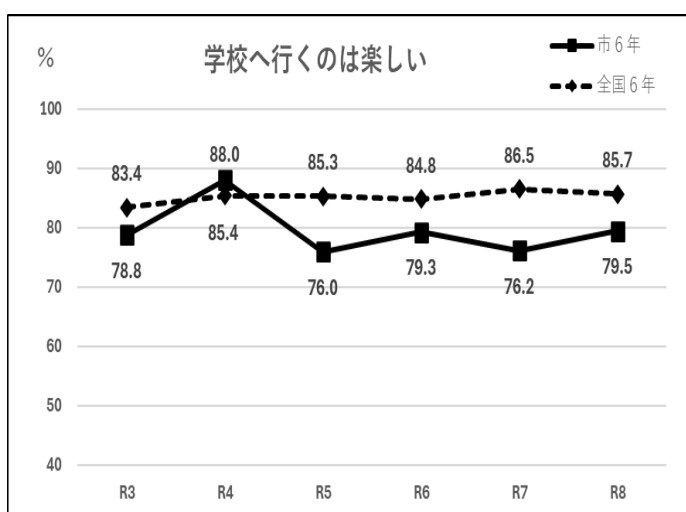
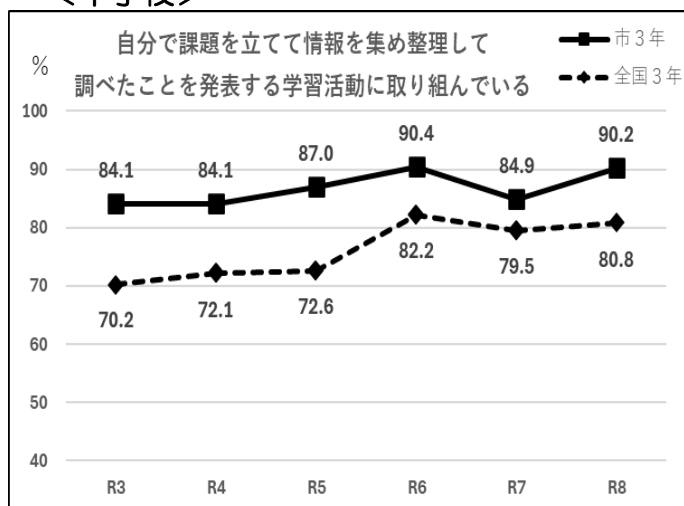
<中学校>



<小学校>



<中学校>



～質問紙調査の結果について～

<小学校>

- ・「国語の勉強が好き」について、肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均より上回っている。
- ・「算数の勉強が好き」について、肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均より下回っている。
- ・「授業はよくわかる」について、国語、算数とも肯定的な回答をしている児童の割合が全国平均より下回っている。
- ・「友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」については、89%の児童が肯定的な回答をしているが、昨年度の市の結果と比べて大きく下がっている。
- ・「学校に行くのが楽しい」「地域や社会をよくするために何かしたい」について、肯定的な回答をしている児童が全国平均を大きく下回っている。

<中学校>

- ・「勉強が好き」について、国語、数学とも肯定的な回答をしている生徒の割合が全国平均より下回っている。
- ・「友達や周りの人の考え方を大切にして、お互いに協力しながら課題解決に取り組んでいる」については、肯定的な回答をしている生徒が多いが、全国平均より下回っている。
- ・「自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する学習活動に取り組んでいる」については、全国平均を上回っている。

～全体にかかわって 考察～

- ・小学校、中学校ともに、平均正答率が全国平均を下回っているという結果から、各校において児童生徒の実態に基づいた授業改善を早急に進めていく必要がある。
- ・質問紙調査において、小学校、中学校ともに否定的な評価をしている項目が多い学校があり、各校において細かな分析を行い、取組を進めていく必要がある。
- ・小学校、中学校ともに「学校に行くのが楽しい」については、肯定的な回答をした児童の割合が全国平均を大きく下回っている。各校で細かな分析を行い、日々の授業づくりはもちろんのこと、教育活動全体を通じて充実感や達成感等が味わえるような取組を進めていく必要がある。

～今後の取組～

- 各学校において、教科調査結果と質問紙調査結果とを関連付けて成果と課題を分析し、授業づくりで取り組むべきことを明確にしながら授業改善を進めていく。
- 学校教育課においては、各校の「授業改善」に向けて次の取組を行う。
 - ①管理職による研修会の実施
 - ②小学校国語科研修会、中学校英語科研修会の実施
 - ③各校の課題に即した訪問指導（授業者の困り感を聴く、参観者が自分事とする研修の実施）
 - ④全国学力・学習状況調査の結果を受けて各校の取組の進捗確認